

令和4年度 第2回福島市廃棄物減量等推進審議会 会議記録書

- 1 日時 令和4年10月25日(火)
10:00開始～11:00終了 所要時間60分
- 2 場所 福島市市民会館3階 301号室
- 3 出席者 委員9名、事務局12名、マスコミ5社
- 4 会議録

次長	1 開会
会長	<p>2 会長あいさつ</p> <p>ごみの減量化に対する関心は、マスコミの参加状況などを見ると、非常に高い関心事であることがわかる。</p> <p>本日の審議会では、委員の方の意見をお伺いして、今年度のうちに審議会の意見書を取りまとめていきたいと考えている。限られた時間であるので、委員の方の積極的な発言をお願いしたい。</p>
ごみ減量推進課長	出席状況報告
次長	<p>それでは、早速議事の方に入っていきたいと思う。</p> <p>会長に座長をお願いする。</p>
会長	<p>3 議事</p> <p>それでは、議事を進めさせていただく。</p> <p>議事(1) コロナ禍・災害によるごみ総排出量への影響検証について、事務局より説明をお願いします。</p>
ごみ減量推進係長	(1) コロナ禍・災害によるごみ総排出量への影響検証について (資料により説明)
ごみ減量推進課長	<補足説明：令和4年3月16日福島県沖地震災害規模について>

会長	<p>9月末現在で住家の被害については、全壊が58棟、大規模半壊が87棟、中規模半壊が227棟、半壊が919棟、一部損壊が2,845棟という状況になっている。</p> <p>ごみ減量推進課で被災家屋の解体事業を行っているが、こちらの申請状況を見ると、約900棟が解体事業の申請棟数として挙がってきている。令和3年福島県沖地震と比べると、3割以上棟数としては増加している状況にある。</p> <p>また、地震発生の翌日である3月17日から4月22日まで、あぶくまクリーンセンターとあらかわクリーンセンターにおいて、地震で発生したごみを災害ごみとして86t受け入れている。家屋解体時の家財道具というのは、ほとんど一般廃棄物として処理される部分になるので、受入期間が終了した後に持ち込まれているものなど、現在もおそらく定期的に搬入されているごみがあると思われる。しかし、その量を掴んではないので、今回の推計値の中には盛り込んでいない。</p> <p>よって、今回の推計にはあくまでも表に出ている部分だけを含めている、ということをご理解いただきたい。</p> <p>ただいまの事務局の説明に関して、意見・質問等を伺いたいと思うが、非常に範囲が広いので、別紙1の4ページのとおり、この順番で聞いていこうと思う。まず、「コロナ禍の影響の考え方について」ということで、意見・質問をいただきたい。</p> <p>「災害の影響の考え方について」、「コロナ禍・災害の中での減量効果について」と順番に進めていき、3つ終わった段階で、全体的に何かあるかということ伺いたいと思う。</p> <p>最終的には、4つ目の「有料化の導入について」の箇所で、資料に記載がある「最終答申のとおり、ごみ減量の現状をみれば有料化はやむを得ないか」、「有料化する場合、いつが妥当か」について、これに縛られなくても結構なので、意見を伺おうと思う。最終的には、「有料化の導入について」の意見を審議会としての共通の考え方に至ればよいと考えている。</p>
----	---

委員	<p>それでは、最初に「コロナ禍の影響の考え方について」ということで、別紙1の2ページからの資料が中心になると思うが、意見・質問等あればお願いしたい。</p> <p>議論が白熱して長くなる場合、大変申し訳ないが、会場の都合もあるため、終わりの時間を指定させていただくので、ご了承いただきたい。</p> <p>参考の値なので、決してこれがその通りだったということではない。そもそも生活様式の変化による影響量というのがあって、2%や4%の増が福島市に当てはまるということはわからないが、かなりの自治体数を全国一律の調査方法で解析した大学のレポートによると全国平均で可燃ごみで2%、不燃ごみで4%の増となっている。福島市に適用するとこのような数値が参考として出てくるだろうという推計の数値である。</p> <p>また、コロナ禍がなかった場合の減量効果6%というのは結構いい感じに見積もっているという感じはする。もっと言えば、コロナ禍の影響が無くなってくれば、6%の減量効果が段々効いてきて本当に減るということも考えられることから、頼もしい数字だとは思う。</p> <p>(株)ダイオーというところで、飲食店と菓子店を営んでいる。我々の商売の考え方にはなるが、コロナ禍の影響というところで考えると、確かにテイクアウトは増えており、それに対する資材も比例してたくさん仕入れていると思う。しかし、自分の店の場合によるが、コロナ禍により大会等がなくなり、大規模な発注等がないので、それを鑑みると、ごみの排出量は大体横ばいぐらいではないかと思っている。</p> <p>ただ、これからコロナ禍が落ち着いてきたとしても、テイクアウトも市民の日常になりつつあるので、それにプラスアルファで大会等での大規模発注が増えてくると、もう少し増えてくるかなと考察している。</p> <p>菓子業の方で言えば、ネットショッピングがコロナ禍前より非常に好調で、ダンボール等の資源の排出量は増えていると思っている。</p>
----	--

<p>会長</p>	<p>ただし、県外や市外への配送も多くなっているような状況もあるので、単純に福島市でだけ廃棄しているものではなく、県外や市外でも廃棄されている可能性もあるのではないかと。</p> <p>今の意見の中で気付かされたことは、コロナ禍はだんだん弱まっていくが、コロナ禍によって新しいライフスタイルも生まれてきている。テイクアウトなど新しいライフスタイルについては、コロナ禍が収まっても引き続き需要があり、その部分のごみは減らないんじゃないかという非常に貴重な意見であった。</p> <p>また、ダンボールなどの包装資材についても、県外や市外に行っている可能性もあるが、逆を言えば、私たち福島市民も県外や市外からネットショッピング等で購入した物にもダンボールなどの包装資材が使われているので、結局相互に影響が出ており、ごみの排出量に少なからず影響を与えているという側面もある。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナ禍で自宅に居る時間が長くなり、普段出来なかった片付けに手を加えたことで、家の中はかなり過ごしやすくなった。それが何を表しているかということ、今後出るであろうごみが少なくなっているということが明らかである。自分自身の経験でもそうであるし、近所の話聞いても家の中を片付けているという話があり、同じ状況であることが窺える。説明にもあった排出量の数字で留まるのか、それとももっと増えるのか実際はわからない。もし、今後も目標値の数字に届かないということがあれば、委員の意見にもあったように、新たな要因の分析も必要になると思う。世の中の景気が急に回復することで需要が喚起され、ごみの排出にどのように繋がるか、今回のコロナ禍によりごみの排出量はさらに増える可能性もあるのではないかと思った。</p> <p>なお、1人1日当たりのごみ排出量が減ったということについては、福島市の活動のこれまでの成果の表れの一つかなと捉えることができるのではないかと考えている。</p>

<p>会長</p>	<p>確かに大学のレポートによると、コロナ禍で増えているということになっているが、福島市としては僅かではあるが、明らかに減っているということは、福島市や市民の努力という部分も評価できるところではある。</p> <p>他、意見等はあるか。</p> <p>また、振り返りでコメントしていただいても構わないので、次の「災害の影響の考え方について」に進ませていただく。資料で言うとは別紙1の3ページになるが、こちらの件について意見等あれば、発言をお願いします。</p> <p>こちらは先程の「コロナ禍の考え方」に比べると、定量的というか数字での評価がより現実的になっているような値だと思う。これは「コロナ禍の考え方」に比べると、参考になる値として理解しやすいと思われる。</p>
<p>委員</p>	<p>災害ごみについては、正直私たちの意見すべきところではないと思う。災害で発生してしまったものを家の中に置いておくことはできないので、ごみに出すのは当然のことである。今回の2度の災害は半壊以上の家が多かったこともあり、通常に比べてごみとして排出される量は少なからずあると思われるので、この災害ごみの数値に対してのコメントはなかなか難しいかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>確かに災害ごみを出すこと自体ダメということではないので、委員の意見はもっともである。</p> <p>災害ごみの原因による影響度は202tと仮定したが、この数値もこれ以上精査はできない内容だと思うので、これぐらい増えた影響があったらというようにして、この件についての意見交換は終わりにしたいと思う。</p> <p>それでは、3点目の「コロナ禍・災害の中での減量成果について」、あるいはここまでの議論全部まとめた形でも結構なので、意見等をお願いします。</p> <p>この問いの論点としてはどんなことがあるかということ、審議会は</p>

	<p>過去の答申において、まずは有料化以外の施策を展開し、1人1日あたりのごみ排出量 890g 以下を目指していこうと、『ごみ減量大作戦』で様々な取組を実施してきた。ところが、コロナ禍であったり、災害であったり、取組期間の3年間は順調にはいかなかった。その影響分を差し引いて、実はそれさえなければ、890g 以下を達成したのではないかと、そういうような見込みがあって、今回事務局に数値の精査をお願いしたということである。</p> <p>精査した結果、影響分を差し引いたとしても、890g には及ばず、999g と 1kg 程度に留まったということである。</p> <p>減量の成果はあったのかと言われると、何とも言えないが、890g 以下には達しなかったということは事実として言わざるを得ない。しかし、999g の根拠も参考数値としているところであり、少しぼやっこしているところもあるので、その部分も含めて委員の方にご意見をいただきたい。かなり努力したと思われるのか、まだまだ努力が必要だと思われるのか、そういうところも含めて、何か意見・質問があればお願いします。</p>
委員	<p>前の話に戻ってしまい、直接関係あるかどうかの意見で申し訳ないが、可燃ごみを減らす、ということが大前提にあり、各町内会を回っての説明でも、市民が出す可燃ごみに含まれるごみの種類の内訳のグラフを提示いただいた中で、紙ごみや草枝類などの割合が示してあった。その中で紙ごみを資源にするという取組で、可燃ごみの削減を図ってきたという経緯があったものであるから、前回の審議会でごみ排出量は資源ごみも含めた排出量になっていると聞いて、正直戸惑ったところである。ごみ排出量の算出が今までのやり方だと、努力した結果が見えにくい。資源ごみも粗大ごみも不燃ごみも全部含んで算出してしまうと、努力のし甲斐がないというか、難しいというのが率直な意見である。</p>
会長	<p>今の委員の指摘について、大変素晴らしい指摘である。</p> <p>補足説明させていただくと、890g を目指そうという動きの内訳で</p>

	<p>あるが、可燃・不燃・粗大・資源、これらを全部合わせて 890g を目指そうということにしていた。しかし、今の委員の指摘は、資源の分別を頑張ってやっているのに、資源までカウントされたら、全然減量効果が見えないのではないかというものだった。確かに昔の審議会では資源も含めた目標値にしていたが、最近の事務局ではこの算出方法を変えている。890g というのは既に発言してしまったものであるので、取り消すことはできないが、現在は家庭系ごみと事業系ごみと呼ばれる会社から出てくる産業廃棄物を除くごみのうち、家庭系ごみの可燃・不燃・粗大、これだけに注目して 530g 以下を目指そうという流れにシフトしている。資料的には、前回答申した際には 890g 以下と言っている手前、資料上や市民にもこの数字で説明してきているが、今後は努力によって資源ごみが減ることが活かされることになるので、どこかのタイミングで、例えば今年度審議会の意見を出すときには、新しい指標で説明するのがいいのかもしれないと思う。</p>
委員	<p>家庭系ごみの目標値は 530g 以下となっているが、ごみの内訳はどうなっているのか。例えば、食品でロスが出て捨てているものなのか、調理したものの残渣が出ているのか、ごみの内容によっては、量が結構変わってくる場合もあると思うので、内訳を教えてください。例えば最近だとフードドライブなどで、家庭から出る食品を必要な方に回すような動きもあるので、530g の内訳が少し気になるところである。</p>
会長	<p>ごみ組成というものがあり、事務局でデータを持っていると思うので、何か参考になる直近データがあれば、報告をお願いしたい。</p>
ごみ減量推進係長	<p>令和 3 年度に実施した組成分析の調査の結果だと、福島市の家庭から出る可燃ごみの中で、一番大きな割合を占めているのが「生ごみ」で約 4 割となっている。この中には食品ロスと言われるようなものであるとか、食品残渣など、そういったものが全て含まれてい</p>

<p>会長</p>	<p>る。</p> <p>その次に多いのが、「紙類」ということで約 20%、その次に続くのが「草枝類」で約 14%というような数字になっている。</p> <p>530g の中で考えても、家庭から出るごみの中で一番大きな割合を占めているのは可燃ごみであり、その中でも一番大きな割合なのは「生ごみ」というような結果である。</p> <p>そういった意味で『ごみ減量大作戦』の中でも、「生ごみ」は水分を含んでいるから重いということで、本市では「生ごみ」の水分を絞るようなグッズを配布したり、あるいは「生ごみ」を肥料化するためのコンポスト購入助成事業を展開してきている。別な地域では一絞り運動ということで、「生ごみ」を捨てる時に一絞りして水分を少なくするという取組をしている。また、「紙ごみ」も雑紙として対象範囲を広くして、資源ごみとして集めるような形になってきた。「草枝類」については、東日本大震災以降特に増えていると言われている。考えられる要因の一つは、除染で一度庭をすごくきれいにした結果、その状況を見慣れてしまったので、昔に比べて除草等をするようになり、草や木そういったものの搬入が非常に多いということがある。ごみ収集の人の話では、今まで午前中で取り切れていた収集がもう一回りしなくてはいけなくなったとか、そんな話をよく伺っているところである。</p> <p>他、意見等はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>一般的にいろいろな団体が数多くあるが、ごみ関係に直接関わる団体や、ごみ関係のことに興味を持っている団体とか、そういった方には情報が届き、減量に努力していたり、福島市の情勢が今どういう状態にあるか、というような話はよく聞くところである。ただし、一般の市民には情報が届いていないように感じる。こういった取組や現状の説明など、もう少し市民へPRしていただくと、一部の取組だけではなく、福島市全体の取組としていけるのではないかと思う。</p>

	<p>もう一つ、農家で空いている土地を利用して「生ごみ」に関しては、堆肥化の取組を行っているところもある。ダンボールコンポストなどの取組をやっている人もいて、自分のところでは廃棄用の囲いを自作し、「生ごみ」を廃棄している。もう少し自然の循環とかそういうのを活かしたものをやっていただけたらと思っている。</p> <p>果樹農家の方はチップにして大地にかえしたり、農作業の範囲ということで許可をいただいて、枯れ枝等の木を燃やすなどして、処分量を減らす努力をしていると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、4番目の「有料化の導入について」、今までの議題も含めて、意見・質問等あればお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>前回、委員からごみを出すのにお金を出す、いわゆる有料化について、町会連代表から反対するような意見があったという話をいただいた。この件について、町会連役員会で確認してきたので、その報告と併せて意見を述べさせていただく。</p> <p>現在の役員は昨年度から継続している役員が4名いるので、その方々から確認した。昨年に出た意見については、町会連でオーサライズされたものではないということを確認した。個人の意見であったのではないかと思われる。</p> <p>そこに至った考え方については、数点確認できるものはあったが、それについての確証はとれないので、詳細は避けさせていただく。</p> <p>したがって、これからどうするかということについて、町会連役員の方からは「あなたに任せる。」と言われたので、私の意見を述べさせていただく。一町会長としては、ごみ置き場の運営について、先ほどもごみは減量に向かっているというような流れがあったが、場所によっては、現在のごみ置き場にネットを活用したもの、あるいは、ボックスを活用したもの、様々な集積所があるが、その集積所には入りきれず、ネットからもみ出すなどの状態になっているところもある。そうすると、ごみ置き場のスペースを大きくしたり、数を多くするなど、そういった対策に取り組んでいる。また、</p>

ごみの排出に関して住民にお願いをするにしても、町会加入の方には連絡できるが、町会未加入者への連絡がなかなか進まない。そんな問題も抱えている。

有料化の導入について、結論から申し上げますと、伊達市、二本松市を見ると、ごみ袋の有料化が進められている。そういうところの近くに住んでいる町内会長から聞いた話だと、ルールは守って出している一方、どうしても指定されたごみ袋があると、指定袋以外に詰めて福島市に持って来ているということが見受けられるということもあり、福島市もそろそろ有料化に取り組んでもいいのではないかと考えている。有料化することで、メリットもあると思うが、デメリットもあると思うので、そこは十分な対策が必要になってくる。先程町内会で困っていることがあると述べたが、有料化すれば全てが解決するわけではない。これからのことではあるが、考えられる範囲で、町内会でこれから対応が必要になってくると思われることは、不法投棄の件である。指定されたごみ袋を使わない方がごみ集積所にごみを排出しても収集してもらえないので、その辺に捨てる、つまり不法投棄が増えることへの町内環境の悪化というのも懸念される。

一般的な話ということで申し上げますが、先程も触れた町内会に入らない方、いわゆるアパートの住人や不動産等で個人で貸家業を営んでいる方、このような市民にも市からの周知もしっかり行っていただきたい。ごみ有料化への切り替えには、ある程度時間をかけながら事前周知の期間をしっかりと設けて、いつから有料化になると、ごみの出し方はこうなると、その周知を何度も何度も行っていただきたい。また、情報を市の方で一生懸命出しても、情報を必要としない方には届かないということもある。そういう方は欲しがっている情報しか取りに行かないので、そのような方にも目が付くようにのぼり旗大作戦のような形で、市民の方が出掛けるスーパーなどへののぼり旗の設置数を増やしたり、新聞を取らない世帯も増えているので、マスコミの活用についても検討いただきたい。限定的だとは思いますが、いずれにしても市民の活動範囲が多いところ、目に付く

委員	<p>ところへのPRに力を入れて行っていただきたい。そういったことを市で取り組み、ある程度の期間を持って有料化へ切り替えていけば、ごみ有料化に対する市民からの大きな反対等は起こらないのではないかと考えている。</p> <p>貴重な意見感謝する。非常に参考になった。</p> <p>今、事前周知に期間を設けて欲しいという話があったが、周知期間は大分長くっていただいた方がいいと思う。</p> <p>我々も商売をやっていると、現行の「インボイス制度」の導入など、猶予期間をいただいてやっているところである。</p> <p>ごみ有料化はごみに関することであるので、周知の仕方にも工夫いただきたい。例えば先程ののぼり旗の他にも、チラシを撒いたりするということもあるかもしれないが、ごみの量が増えるという懸念もあるので、多分市民への周知はテレビがまだまだ強いと思うので、テレビやラジオなどマスコミを活用するなどして、なるべく資源を使わないような周知方法も考えていくのも一つではないか。そういった広報の仕方も審議会の中で考えていければと思う。</p>
会長	<p>別紙1の4ページの「有料化の導入について」のところに事務局で2つコメントを記載している。内容は「最終答申のとおり、ごみ減量の現状をみれば有料化はやむを得ないか」、「有料化する場合、いつが妥当か」である。今までの委員の議論を聞いていると、有料化するのであれば、こういう注意や配慮が必要だとか、情報の告知期間や情報を誰に向けて出すのかとか、そういう指摘が多かった。その発言の根底には、有料化は仕方がない、今の時代の流れではないかということを感じるといえるような印象がある。</p> <p>事務局が作ってくれた構図、この話の流れは、過去に審議会で「ごみ有料化もやむを得ない」という答申を出したが、目標値を設けて目標値の890gを達した場合、そのトリガーを引かないようにするかどうかというような出し方をした。事務局としては、そのトリガーを引くのか、引かないのか、意見を伺いたいという問いになってい</p>

	<p>る。</p> <p>それに対して委員の方々は、そのトリガーを引くのであれば、こういう注意や配慮が必要だと、そういう意見になっていると今の議論を聞いて感じたところである。</p> <p>議論はあと10分くらいで終了して、審議会としての方向性を見出したいと思う。短い制限ではあるが、ぜひこれは言っておきたいというコメントがあれば、委員の方の発言をお願いします。</p> <p>目標に達成したら有料化をやらないということだったが、目標に達成していない事実は既に出ているので、目標未達成ということでそろそろ整理してもいいのではないかと思う。</p> <p>前回の審議会で会長が言われたふれあい訪問収集、これについて、申し込んで事業を受けられることになったという連絡が地域のお年寄りから私の元へあった。1人住まいで、時々曜日を間違っごみを出している方で、周りでも注意をしていたが、どうしようかと思っていたときに、ふれあい訪問収集で取りに来ていただけることになったということで安心した。</p> <p>有料化したことで、なんでもかんでも市にお願いするこういうことではないが、ぜひともこういったふれあい訪問収集の利用など、有料化を実施することでのメリット、デメリットをしっかりと考えて決断した方がいいということでこの話をさせていただいた。</p>
<p>委員</p>	<p>事務局的には、ごみ排出量の数値に着目して達成するかしないかということに重点を置いた書き方だが、今の委員のコメントを聞いていて思ったことがある。有料化した場合、市民から徴収したお金が集まることになる。それを全国の地方公共団体は様々な施策に使っている。例えば、福島県内で早くごみ有料化に取り組んだところでは、収集運搬の委託費、これがすごく財政に負担をかけているということで、直接その収集運搬にお金を充てているというような自治体もある。</p> <p>それから、東京の方に多い傾向であるが、基金を造って、環境教</p>

育の啓発にお金を使うというようなところもある。市民向けの環境啓蒙プロジェクトに予算を配り、数多く募集・参加してもらっている自治体もある。結果として市民が環境にものすごく興味を持って、ごみがまた減っていくというプラスのサイクルを期待しているところもある。福島市の場合であれば、先程の指摘にあったふれあい訪問収集など、これを市の努力でずっと続けていくということには限界があると思うので、例えば、民間活用できたらいいのではないかという考えもできる。そういうことに集めたお金を使える可能性もあるし、不法投棄の監視員を増やすというようにお金を使える可能性もあったりする。有料化で集まった原資に対して、どう使っていくのかということも考えることで、さらにごみ減量にもつながっていくのではないかと思う。

他、意見等あるか。

委員の考え方、あるいは発言された意見に対しての疑問とか反論とかいうことも特段見受けられないようなので、この審議会で出した最終答申のとおり、「ごみ有料化はやむを得ない。」という方向性は維持ということによろしいかなと思っている。

ただし、昨今の状況を見るに、災害やコロナ禍というものもあるし、また最近経済が非常に厳しさを増している面もある。こういった社会情勢において、有料化するというのは、少し厳しいのではないか、もう少しごみが減るといような期待感はもちろんあるが、世の中がもう少しごみ以外のところで落ち着いてきたことを確認してから、ごみ有料化は実施した方がいいのではないか、そんな考えが共通してあったと思われる。

よって、「ごみ有料化はやむを得ない。」という基本路線は、この審議会では問題ないということによろしいか。

(異議なし)

同意感謝する。有料化する場合、今すぐにでもやってくださいと我々がやれと決める立場にはない。私たちは、市とか市長にこういう意見がありますと言っていく団体である。そういう意味では、有料化やむなしと引き続き思っている。

委員	<p>ごみ減量の取り組みは引き続きやっていただくとしても、いつやるかというようなことについて、様々な要因や世界規模での経済の厳しい状況、ここが少し収束するような状況を見極めながらやるのか、今すぐやった方がいいのか、というような考えがあるが、その点についていかがであるか。意見があれば、お願いしたい。</p> <p>いろいろ話を聞いた中で、近隣の市町村も有料化になってきて、確かに出せないごみを福島市に持って来ると聞くと、いかなものかという気もするので、まあやむなしと思うしかないというところではある。</p> <p>しかし、今は何でもかんでも値上げのこの時期では逆に反感をかうのは当然だし、コロナ禍も新しい型がどんどん出てきてあまり落ち着くとは考えられない。あと何年間か後で、本当に落ち着いてからでもいいのではないか。周知はしてもいいと思うが、有料化はもう少し後にしていただければと思う。</p>
会長	<p>最近、ごみ袋に使用する有料袋について、日本全国的に見ると、やや品薄になっていて、有料袋が販売できない自治体が複数あるというニュースもある。やはり原料価格が上がってきているということ、コロナ禍で働き手がなくなってきているということ、いろんなことがあるので、今福島市がこの規模で有料袋を導入した場合、結構高い値段で仕入れることになってしまう。例えば、1袋何十円、10枚で百何十円と決めたとしても、有料化した意味がすごく薄まり、有料化した際の際の原資という考えからすると、なんのためにやっているのかと思うようなところもあったりする。</p> <p>それでは、結論については、この議論を踏まえて事務局に次の委員会までに案を作っていただこうと考えている。事務局にお伝えするために我々の言いたいことをコンパクトに整理すると、まず、「ごみ有料化はやむを得ない。」「有料化する場合は、ごみの減量の取組だけではなくて、様々な社会情勢、こちらも配慮していただいて、実施するのがいい。」と、この2点の整理で問題ないと思うが、よろ</p>

	<p>しいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>付け加えて意見等あるか。特にないようであれば、意見交換を終了させていただく。</p> <p>本日の議事はこれで終了となる。委員のご協力に感謝する。進行を事務局にお返りする。</p>
次長	<p>会長のスムーズな議事進行に感謝する。</p> <p>また、委員の方には審議いただきこと併せて感謝する。</p> <p>それでは、4 その他について、事務局から説明をお願いする。</p>
ごみ減量推進課長	<p>次回の審議会になるが、令和4年12月頃を予定している。いただいた意見を基に意見書の素案を整理して提示したいと考えている。その内容については、改めて審議いただき意見書として取りまとめたいと考えているので、よろしく願います。</p> <p>委員の方には第3回の日程が確定次第、連絡させていただく。前回の審議会でもお願いしていたが、以降の会議についても資料のデータについての対応が可能であれば、事務局に申し出ていただきたい。資料を事前にデータにて送付させていただくので、ご協力よろしく願います。</p>
次長	<p>ただ今の件に関して、委員の方から質問等はあるか。</p>
会長	<p>先程の件で発言を撤回させていただきたい。</p> <p>先程袋の値段が10枚いくらとか話したが、いい加減な数字であるので、その点をご理解いただきたい。</p>
次長	<p>それでは、以上を持って、本日の審議会を終了とさせていただく。</p> <p>本日はお忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。</p>
	<p>以上。</p>

